

平成 24 年度 知床世界自然遺産地域
第 1 回 適正利用・エコツーリズム検討会議
議事要旨

◇日時 平成 24 年 10 月 5 日（金） 14：00－17：00

◇場所 斜里町公民館ゆめホール知床 会議室 1

◇会議次第

開会

あいさつ

議事

1. 知床エコツーリズム戦略について
2. 知床エコツーリズム戦略(案)の試行について
3. 個別会合等からの報告
4. 知床国立公園管理計画の改定について
5. その他

閉会

◇議事要旨

【 開会 】

【 あいさつ 】 環境省釧路自然環境事務所次長、斜里町副町長、座長

(座長)

- ・知床エコツーリズム戦略は 2010 年に検討がスタートし、検討から 2 年間で原案ができた。
- ・前回 3 月 13 日の検討会議で、皆さんの合意により戦略を試行していく段階に入った。
- ・この戦略は何かを達成するための目標を定めたものではなく、皆さんが発案することで実現できるオプションを手に入れたと考えていただきたい。
- ・戦略の試行については、過去に事例がないため、検討会議や今後の部会設置、進行については、失敗やつまずきが出ることについて承知いただきたい。
- ・エコツーリズム戦略は、パブリックコメントや住民説明会を踏まえ、修正中である。
- ・提案が出された 3 件についての審議は、まず提案者より提案内容の説明をいただき、それぞれの提案について部会を設置すること、それ以降を進めるかどうかを議論し決定していきたい。

■ 1. 知床エコツーリズム戦略について

資料 1-1 知床エコツーリズム戦略（案）に対する意見募集の実施経過について

資料 1-2 知床エコツーリズム戦略の住民説明会の結果について

(釧路自然環境事務所 三宅)

- ・資料 1-1、資料 1-2 について説明。

(座長)

- ・資料 1-1 及び 1-2 に関して質問や意見を伺う。
- ・只今の報告については承認いただいた。

資料 1-3 知床エコツーリズム戦略 事務取扱要領の作成について

資料 1-4 知床エコツーリズム戦略の策定スケジュールについて

(釧路自然環境事務所 三宅)

- ・資料 1-3、資料 1-4 について説明。
- ・事務取扱要領については、起草部会を経て今年度最後の検討会議で決定したい。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・今回の提案者にもヒアリングをして事務取扱要領の内容に反映させていきたい。また、提案しなかったができなかったという人にも意見を聞き参考にしたい。

(座長)

- ・事務取扱要領の作成については、年度内完成を目標に進めるということで良いか。
- ・原案で示された内容に準拠し、起草部会での意見を踏まえ決定する。
- ・今の段階で予測できないため、部会を設置するプロセスについての記載はないが、部会で審議された結果は、今年度の第 2 回検討会議で報告されることが望ましい。

(間野委員)

- ・今年度中に第 2 回検討会議を開いて戦略を決定するとの事だが、最終的に知床世界自然遺産地域科学委員会の承認は必要ないという理解で良いか。

(座長)

- ・科学委員会の役割は科学的知見に基づく助言であり、承認は必要ない。

(釧路自然環境事務所 三宅)

- ・2 月開催予定の科学委員会で、知床エコツーリズム戦略について報告し意見をいただきたい。
- ・検討会議後に地域連絡会議を経て最終決定するのが望ましい。

(座長)

- ・策定のスケジュールは、今後も変更の可能性がある。

■ 2. 知床エコツーリズム戦略(案)の試行について

(座長)

- ・部会の設置を決めるのは、そのまま実施をさせるということではなく、検討を進めて良いということで、部会での検討結果により実施内容は変わる。
- ・提案があったことが良いか悪いかではなく、その提案を検討して良いかを考えていただきたい。

資料 2-1 知床五湖冬季利用促進事業

(知床斜里町観光協会 松田)

- ・資料 2-1 について説明。
- ・月別の観光客数について 2011 年と 2001 年を比較すると、2 月、7 月、10 月の落ち込みが著しく、観光協会としては冬もしくは 8 月以外の時期に集客を行いたい。
- ・知床五湖の冬季の魅力を伝えていきたい。
- ・冬は流氷を見るために観光客が沢山訪れ、最近 10 年ぐらいは、専門のガイド付きで安全に流氷の上を歩く流氷ウォークというアクティビティが人気を集めている。
- ・しかし、ここ数年流氷ウォークが安全にできる期間が短くなっており、冬の観光を盛り上げていくためには、新たな観光資源が必要だと考える。
- ・冬季のアクティビティの増加で、宿泊数を増やすなど知床観光の底上げができると思う。
- ・現在、屋外で冬季に利用可能なのはフレペの滝だけであり、知床五湖の園地利用は限定的となっている。
- ・冬期の知床五湖は 5 年前から北海道の特例で限定した利用が可能となったが、閉鎖中の道路上を歩いてアクセスするため知床五湖散策を行う際は丸 1 日かけて行なってきた。
- ・昨年は工事により閉鎖中の道路の除雪が行われ、工事の事業主体である環境省の責任のもと、安全のため時間帯や人数制限をして知床五湖園地まで車両の乗り入れによる観光利用を行った。
- ・除雪や車輛の安全走行の確保、利用者の安全管理等の安全な利用のための体制作りが必要である。
- ・知床五湖の安定的で多様な利用により、冬の観光の集客に結びつけたい。
- ・知床五湖の冬季利用者は夏に訪れたリピーターが多く、実際に冬の知床五湖も見たいと言う方の声を聞く。
- ・限定した利用を進めることにより、外部と閉ざされた静寂な空間で、知床の冬ならではの非日常の体験ができる。
- ・景色や野生動物の痕跡、北海道の歴史の一部である農業開拓跡地にも触れることがで

きる素晴らしい場所である。

・2月から3月に繁殖期を迎える猛禽類に配慮したルールや、モニタリング調査等の自然環境への配慮が必要である。

・冬季利用のアンケート調査の一部により、知床で一番人気の流氷ウォークと五湖の冬季利用は甲乙つけがたいという結果が出ており、知床五湖冬季利用促進事業が非常に有効だと感じ提案する。

資料 2-2 知床野生動物エサやり禁止キャンペーン

(知床斜里町観光協会 松田)

・資料 2-2 について説明。

・今年ヒグマの目撃件数は、4月から9月までで1524件になっており、例年の倍以上の目撃件数である。

・写真を撮る目的でクマに車を接近させたり、ヒグマに向かってエサを与えるなどの行為や、投棄されたゴミやゴミ箱を荒らすヒグマが実際に目撃されている。

・ヒグマやキタキツネ等へのエサやりの禁止やゴミの不法投棄の禁止、それ以外に守らなければならないマナーについて、皆さんの知恵を借りて議論をし、観光客のマナーの向上を図りたいと考える。

・看板の設置やパンフレットを配るだけではなく、地域住民が意識し声に出していくことが重要だと考える。

・これまで、野生動物に何故エサをやってはいけないのかを、自然ガイドがバスの乗務員や添乗員に説明し、きちんと知ってもらうことにより改善してきたという成果がある。

・車道沿いで観光客とヒグマとの接点が増え、車を怖がらないなど人慣れする可能性や、人間側もヒグマに対して慣れてくるという懸念があり、知床に隣接する地域住民にも影響が及ぶような心配があるため、地域発信型の野生動物へのエサやり禁止キャンペーンを行う必要があると考え提案する。

資料 2-1 知床五湖冬季利用促進事業

(座長)

・知床五湖冬季利用促進事業の提案について審議したい。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

・羅臼も同じ思いであり、まったく異論は無い。

(知床エコツーリズム推進協議会 上野)

・今日はエコツーリズム推進協議会の立場で出席しているが、観光協会でも議論してきた経緯があるため追加的な話をさせて頂きたい。

- ・基本的にガイド事業者は冬の営業が出来ないことから、非常に厳しい経営環境にあり、これを何とかしたい。
- ・冬の自然を見てもらう事は知床の自然紹介として重要である。
- ・年間を通して知床を見てもらうことで、自然についての理解が深まるのではないかと。

(座長)

- ・部会設置のための条件は、エコツーリズム戦略の基本原則と提案が、一致または添っているかということである。

(羅臼遊魚釣り部会 石見)

- ・冬季間に利用できる場所を利用して、観光客の増加を図ることか。
- ・戦略の提案は、何らかの制約があった場合に、それを取り除く為の組織を作ることや約束事を決めておくことが原点ではないのか。
- ・冬季利用については、商品を作って使える場所を利用すれば良いのであって、検討会議の中で一つずつ決めていく必要があるのか。

(座長)

- ・提案の背景や理由を伺い、その提案を検討して良いかを決めるのが今の段階である。
- ・提案された内容について、部会を設置しなくても良いというご意見をいただければ、部会を設置せず話しを進めるという選択肢がある。
- ・提案者からの補足はあるか。

(知床斜里町観光協会 松田)

- ・冬季の利用について、これまでは冬季通行止めとして道路のゲートが閉まっていて除雪されていない場所を道路管理者である北海道の特例許可をもらい徒歩利用していた。しかし、歩いて行くには体力が必要であり、行程も長く、安全を確保する上で非常に難しい部分があった。
- ・閉鎖されている道路について車で限定的に利用することについて、自然環境への負荷等について検討し、意見をいただき、より良い方向で進めたい。

(羅臼遊魚釣り部会 石見)

- ・良くわかった。

(釧路自然環境事務所 中山)

- ・昨年度は、環境省が駐車場の工事のために道路管理者である北海道から許可を得て除雪を行い、観光利用者は環境省の責任の元で利用している。

- ・今後工事がなければ除雪や道路管理上の問題、猛禽類や自然環境への影響など、懸念される事があり、具体的に議論を進めるためにも部会は必要だと考える。
- ・今年に限定すると、エゾシカ対策を本格化する際の除雪で協力できるかもしれないが、事業者責任を担っていただくような新しいルールが必要であるため、皆さんで議論して頂きたい。

資料 2-4「知床五湖冬季利用促進事業」に基づく試行の進め方について

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・資料 2-4 についての説明。
- ・提案いただいた 3 件とも部会を設定できると考える。
- ・会議の進め方について、提案者と事務局、斜里町、羅臼町で整理し作成した。
- ・エコツーリズム戦略の 3 つの原則に対応していると考えられ、課題もあるため個別部会を組織して詳細を検討していくことが必要と考える。
- ・戦略の基本原則との対応、部会立ち上げや構成メンバー、部会設置後の留意事項について皆さんの意見を伺う。

(座長)

- ・資料 2-4 の作成主体は今後議論しなければならないが、初回のため事務局および両町で準備した。
- ・実際の試行が終わった段階では、チェックシートの形で作られる。
- ・原則との対応、基本方針との対応、個別部会の構成などについて伺いたい。

(斜里山岳会 滝澤)

- ・五湖の冬季利用について様々な問題が出てきたのは、平成 4 年の宿泊施設冬季営業が発端であり、知床自然保護協会が奥地利用に関しての意見を述べていたという歴史的な経過があるので、構成員に知床自然保護協会の参加を提案する。
- ・資料を見ただけでは議論の焦点がわかりにくいので、当面議論しなければいけないことをチェックシートなどに盛り込んではどうか。

(座長)

- ・提案説明について改善を試みる。
- ・部会の構成員として自然保護協会に参加願うことについて、提案者の意見はいかがか。

(知床斜里町観光協会 松田)

- ・賛成する。

(釧路自然環境事務所 中山)

- ・部会設置の検討事項にエゾシカ対策との調整を入れ、その観点から知床財団を部会構成員に入れることを提案する。

(知床財団 増田)

- ・私共は知床 100 平方メートル運動の現地業務も担っているのので、部会構成員として参加したい。

(座長)

- ・知床五湖冬季利用促進事業の提案について、部会を設置するかどうかを決定したい。

(小林委員)

- ・2つの提案には非常に賛成である。
- ・部会では質を高める議論、戦略に見合ったアドバイザリー的な機能を持たせることが必要である。
- ・チェックシートの話が出たが、悪いところを直すというだけではなく、より良いものにしていくという視点の議論が入れば、提案された方にとっても非常にメリットのある部会になる。

(座長)

- ・チェックシートは提案段階で必要なものが満たされているかの確認であり、詳細は部会での議論により検討していただきたい。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・本日欠席の庄子委員のコメントを紹介する。

(庄司委員(欠席)のコメント)

- ・知床五湖冬季利用促進事業の提案内容は、原生的な体験に重きを置いた仕組みにするとも読めるし、一方で新たな利用者を獲得するような比較的手軽なツアーの提供を意識しているようにも見える。どちらが望ましいかは議論の過程で決まるだろう。
- ・レクリエーション体験の多様性の確保ということに関しても議論をして頂きたい。
- ・同じ様な利用層や体験に偏ることなく知床の全体的な利用のバランスを踏まえて議論していく事が必要である。
- ・日本ではこれまで画一的な利用者層を想定した上で、画一的な利便性を提供してきたが、体験の多様性は重要である。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・この提案に関する専門家として中川委員の参加を依頼するとあるが、中川委員のご意見を伺いたい。

(中川委員)

- ・この部会の設置は、知床エコツーリズム戦略のスタートとして非常に良いテーマである。20年来の課題であり、色々な議論や試行をしてきた古くて新しいテーマである。
- ・冬季利用や積雪期利用は、五湖だけでなく今後他にも出てくる課題であり、管理面、安全面、環境に与えるインパクトなど共通する問題もある。
- ・ここで部会を作り議論することは、今後のためにも非常に有意義であり、是非参加したい。

(座長)

- ・決定方法について挙手という方法を取りたい。
- ・1団体から複数の方が出席されている場合は、個人の立場で挙手願いたい。
- ・知床五湖冬季利用促進事業に基づく試行について、付帯事項も含めて部会設置を進め、エコツーリズム戦略に基づいて実行することに賛成の方は挙手願う。

<構成員総意により合意>

(10分間休憩)

資料 2-5 知床野生動物エサやり禁止キャンペーンに基づく試行の進め方について

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・資料 2-5 について説明。
- ・知床に係わる関係者が、ヒグマと観光利用に関する共通のメッセージを発信するため、個別部会を組織しその詳細を検討する方向が良いと考える。

(羅臼遊魚釣り部会 石見)

- ・キャンペーンをただけではヒグマのエサやりは防げない。
- ・ヒグマが増え過ぎたことなどの根本的な問題を議論するために部会を立ち上げるのであれば賛成だが、キャンペーンのためだけであれば反対である。
- ・旅行会社などに周知する事が重要である。

(知床斜里町観光協会 松田)

- ・このキャンペーンでヒグマの問題がすべて解決できるとは思わないが、知床斜里町観

光協会としてできることを提案した。

- ・効果的な策について色々な方と意見交換し、ヒグマとの共存について答えを出したい。

(羅臼遊魚釣り部会 石見)

- ・共存にも限界があり、保護という政策の下でヒグマを増やしたことに原因がある。
- ・根本を考え直さず、ただキャンペーンをやるというのは納得できない。

(座長)

- ・この場は、この部会の設置と検討する内容が妥当かどうかを議論したい。

(小林委員)

- ・戦略のどの部分に対応するかを議論し、部会を立ち上げるのも一つの方法である。

(釧路自然環境事務所 中山)

- ・ヒグマについては、ヒグマ保護管理方針検討会議を設置し、知床半島ヒグマ保護管理方針を作成した。作成に当たっては、間野委員や知床財団にご協力いただいた。
- ・今後 5 年間は、従来のヒグマ対策を踏まえた第一期の計画に従い管理やモニタリングを行い、その 5 年後の管理方針の見直しについても準備していく。
- ・なお、ヒグマ保護管理方針が策定されたことから、現在は関係行政機関を中心にヒグマに関する連絡会議を設け情報共有をしている。
- ・この場は観光利用者の軋轢など、部会で取り上げるべきことにポイントを置いて議論してもらいたい。

(知床羅臼観光船協議会 長谷川)

- ・部会を作るべきである。
- ・人命に関わるリスクの高い問題であり、ヒグマが生活圏に入ってくると甚大な被害も起こる。
- ・駆除の決断をするレベルの部会があることが望ましい。
- ・エサやり禁止キャンペーンの部会構成員に羅臼町観光協会の参加を提案する。
- ・羅臼町でも大変ヒグマが増えており、観光客に接する機会の多い我々観光業者も情報を共有したい。
- ・たった一度の事故が知床に与えるダメージは大変大きいと考え、個人的には一番立ちあげてもらいたい部会である。

(知床森林センター 南)

- ・キャンプ場で今年度も 2 度ほどヒグマが目撃され、知床財団や地元猟友会の方にキャ

ンプ場の宿泊者の避難や誘導、ヒグマの駆除を対応して頂いた。

- ・エサやりによりヒグマが人里から離れず居付いてしまい、結局射殺処分したという知床財団のキャンペーンチラシをセンターの施設に貼っており、そのチラシを見た人から「今まではよく解りませんでした但今後気をつけたい」と言っていた。
- ・観光客やキャンプ場利用者の意識を高めるためには、キャンペーンは非常に大事な取り組みだと感じた。

(釧路自然環境事務所 中山)

- ・ヒグマに近づくカメラマンに注意すると、何の権限があるのかと反論された。
- ・キャンペーンだけではなく、実効性のある法律やルール作りまで踏み込んで行くべきだ。

(斜里山岳会 滝澤)

- ・基本原則に沿って課題解決に向けどのような戦略をとって行くかを議論する部会であれば良いが、戦術的な部分しか議論されていない。具体的な内容であれば部会は必要ない。
- ・最終的な目標の提示など提案資料の作り方にも工夫が必要。

(愛甲委員)

- ・マナーやルールは伝え方だけに力を入れても、メッセージの内容がしっかりしていないと伝わらない。
- ・ヒグマ保護管理方針を作成する際はかなり色々な議論をしたが、観光客のヒグマやエゾシカ、キタキツネへの接近についての議論は不足していたように思う。
- ・部会とヒグマ連絡会議のどちらで議論するかなど、分担を整理して議論するべきである。
- ・マナーやルールは、パンフレットを作成する役所などにより、その内容が微妙に違っていたり、伝えているメッセージの内容が少しずれていたりする場合があるので、情報伝達される内容に基本となるメッセージが活かされるように作ってもらいたい。

(座長)

- ・キャンペーンの内容だけでなく、キャンペーンを実施する際の基本になるところも併せて議論をする部会設置なら意味があるという意見が出た。

(知床エコツーリズム推進協議会 上野)

- ・キャンペーンのレベルと規模によるが、その中でやれることをやらざるを得ないと考える。

・私達の発想の中には、観光客の捨てるものばかりでなく、地元住民のゴミ処理問題もある。そういった部分を含め、自治体、住民が統一した意識を持てるキャンペーンにしたい。

・網走で発生したゴミを知床で捨てていくなど、観光客のゴミはエリアが限定されないため、観光客のゴミ処理について、北海道全体で共通ルールができるようなキャンペーンにしていきたい。

(座長)

・基本的な検討の範囲を広げるということか。

(知床斜里町観光協会 松田)

・ヒグマと人の共存について、専門家だけでなく、地域住民、利用者の視点も含めての議論は今後も必要であり、そのスタートとして提案した。

・斜里町観光協会は民間の団体であり、専門家や行政機関の方々の協力がなければ本質的な議論を進めていくのは非常に難しい。

・体制も含め部会で議論できればありがたい。

(座長)

・基本的にヒグマからスタートし、野生生物と観光客の関係について議論する部会として設置することが望ましい。

・部会の設置に関する専門家はヒグマの検討をされてきた間野委員が適任と考える。

・キャンペーンの必要性や有効な手段も含め、野生生物と観光客の関係について議論をする部会の設置であれば、皆さんの意見が一致する。

・将来的には、給餌、エサやりの問題も扱うが、ヒグマについての検討が終わった段階で報告をいただき、検討会議で調整する方向で進めていただく。多少変則的な部会になると思うが、この運営の仕方でも承知していただければ部会の設置は可能だと思う。

・事務局は対応が可能か。

(釧路自然環境事務所 三宅)

・今回の斜里町観光協会からの提案は、あくまでも観光利用者と野生動物、特にヒグマへの餌付けの問題が顕在化しているウトロ地区において、先行的にキャンペーンをスタートするというものである。

・住民のゴミ問題や、他の生物を含めて餌付けをどうするのかという問題を、ここで議論するのであれば体制も変わってくる。

(座長)

- ・野生生物と観光客の関係を検討することが先で、その結果として対策としてのキャンペーンがあるのではないかという意見が多く出ている。
- ・関連する話題として地域住民と野生生物というテーマも存在するが、これはエコツーリズム戦略の中で扱う議題ではなく、関連するならば扱うという位置付けで整理したい。
- ・部会で野生生物、ヒグマと観光客の遭遇をどのように設定、調整するかを検討し、その対策についても検討していただきたい。
- ・部会で検討されたことについて、検討会議に報告をしていただき決定する。
- ・ヒグマの議論の経緯を基にして、エゾシカやキタキツネなどについては、拡大検討するというところで部会を運営してはどうか。

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・観光客とヒグマの関係についての議論が進まなければ、エサやり禁止キャンペーンができないということか。

(座長)

- ・キャンペーンをやることについては大きな反対は出ていない。
- ・部会で検討してもらいたいのは、ヒグマと観光客との接触度合いをどうするかという問題である。

(斜里町 岡田)

- ・顕在化している問題は、特にウトロ市街地から知床五湖付近までにおける、ヒグマに対する観光客の好ましくない行為である。この課題に成果を出せるような部会であるべきと考える。
- ・野生動物全般へのつき合いなど、テーマが大きくなってくると、簡単に結論が出ない話であり、その結論が出ないと今直近の課題にも進めないという構造にはすべきではない。

(座長)

- ・ここで合意があれば部会を設置せずに対策を取るという考えもある。

(斜里町 岡田)

- ・色々な立場の人が知恵を出し合い、一つの課題について解決していくことを練る場として、部会を設置するべき。

(座長)

- ・部会では当面ヒグマを中心に具体的な対策を検討して、ヒグマ以外の野生生物につい

ては、ヒグマの後に野生生物と観光客の関係を検討する部会に移行するという一方で、皆さんの議論は収束できるのではないかと。

(羅臼遊魚釣り部会 石見)

- ・部会を作ることは反対ではないが、斜里町で起きた事象について解決できなくなったので全体で考えるというような都合の良い考え方に間違いがある。
- ・ヒグマもエゾシカも同じように扱っているが、性質や移動性など一括りにできない部分もある。

(座長)

- ・斜里町の考えは、一つの組織では解決が十分ではないため、部会で検討した方が良いということである。

(北海道森林管理局 梶岡)

- ・大きな野生生物の部会の下に次の部会があるなら解るが、色々な野生生物がいるのでヒグマの部会をそのまま違う野生生物の部会にするのは行き過ぎだと考える。

(間野委員)

- ・発端はヒグマ問題で、最も深刻である近々の課題であり、早急にその方針を決める必要があるという危機感から始まっている話しである。
- ・環境省が指導しても、どうして餌付けしてはいけないのか、誰が決めたのかなどの反論があるということは、何故ヒグマはだめでこれは良いのかという話に今後容易に発展すると感じる。
- ・今回の議論の中では先ずヒグマの問題にフォーカスを当てて議論していくが、過程の中でその場限りで済まない他の野生生物との問題が出てくると思う。
- ・出てきた問題は、ヒグマに対する議論による成果の一つであり、将来、世界遺産の野生生物や生態系の管理をする上でのステップになると考える。
- ・プロセスも大切にして、その成果を活用することが重要であると考えている。

(座長)

- ・部会の設置については、付帯条件をつけずに今回のキャンペーンだけで部会を設置するということである。
- ・検討事項として、最初の提案と同様に基本的なことも含めたい。

(知床斜里町観光協会 松田)

- ・ヒグマとその他の野生生物について並行して議論することにより、このキャンペーン

の対策が遅れないようなスケジュールで進めたい。

- ・野生動物とのつき合い方については、人間の行動が変われば動物の行動も変わるという常に普遍的なものであり永遠のテーマであるが、議論ばかりでは行動が伴わない。
- ・部会としては優先的にヒグマのキャンペーンを進め、その中で出てきた進めるべき議論については、新たなメンバーで議論していただきたい。

(座長)

- ・部会ではキャンペーンとして実施する内容や効果的な対策についての議論を優先していただきたい。
- ・その議論の経験に基づいて、人と野生動物との関係を議論する部会を新たに設置することも検討いただきたい。

(知床斜里町観光協会 松田)

- ・部会の構成員として羅臼町観光協会に参加いただきたい。

(知床羅臼町観光協会 池上)

- ・構成員として発言の機会を頂きたい。

(座長)

- ・エサやり禁止キャンペーンについて、部会を設置し、関係者が協力して対策を取れる体制を考えていただきたい。
- ・今後も他の野生生物でも問題発生することが確実であり、今回設置する部会での検討を活かした新たな部会の提案があれば別途議論をする。
- ・部会の構成員は、提案以外に羅臼町観光協会と間野委員にご参加をいただくことで設置の採決をとりたい。
- ・キャンペーンの名称については若干考慮していただきたい。
- ・部会の設置を認める方は挙手願う。

<挙手多数により合意>

資料 2-3 知床沼の野営禁止に関する提案

(羅臼山岳会 渡辺)

- ・資料 2-3 について説明。
- ・表題は、「知床沼の夜営禁止によって生じた諸問題とその解決に向けた提案」で、提案者は斜里山岳会に賛同いただき、両山岳会の共同提案とする。
- ・知床岳等を目指す登山者のテントサイトとして、知床沼の一部箇所に関野禁止区

域から外していただきたいという提案である。

- ・現在の野営適地とされる「青沼」から知床岳を往復する場合、12 時間ほどの行程となり、登山道が整備されていない等のことにより、事故や遭難が起こる可能性が高い。
- ・数張のテント設営が可能と思われる北沼付近の草地について、野営禁止区域から外し、テントサイトとして活用することを提案する。

(羅臼山岳会 石田)

- ・ここ数年は、利用者が減っていることから藪がひどくなり、知床岳に至る時間が伸び、更に利用者の減少に拍車をかけている。
- ・要望しているスペースには、テント 5 張り程度の野営が可能となり、現在の利用状況であれば十分対応できる。
- ・利用者が増加すれば対策が必要になるため継続してモニタリングが必要と考える。

(座長)

- ・先端部地区利用の心得により知床沼付近の野営が禁止されており、様々な問題が起こっている。

(知床財団 増田)

- ・我々は、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンターで実際に登山者に情報提供などを行っており、是非部会のメンバーに入れていただきたい。

(座長)

- ・提案内容は場所も限定されており、具体的な提案内容について知床エコツアーリズム戦略とも大きな齟齬はない。
- ・部会の設置について賛成の方は挙手を願う。

<構成員総意により合意>

(座長)

- ・部会での検討結果については、検討会議へもう一度返していただき、最終的に提案を承認、実行するかを決定する。
- ・ヒグマの関係で緊急に対策を講じる案件が出てきた場合については、部会検討中でもやむを得ず実施ということは有得ることをご理解願いたい。
- ・今後も今回同様の議事進行で、部会の設置を検討、決定し、部会で議論をしていただくことになる。

(間野委員)

- ・部会での検討期日はいつを目処にしているか。

(知床斜里町観光協会 松田)

- ・具体的にスケジュールは決めていないが早期に部会設置をし、議論を進めていきたい。
- ・部会の構成メンバーの意見を踏まえたスケジュールを組みたい。

(羅臼町知床世界自然遺産協議会 佐々木)

- ・羅臼山岳会は個人の集まりであり財力は全くない。モニタリングや色々な調査が必要となった場合の費用全般について伺う。

(座長)

- ・部会の皆さんでも知恵を出し合っていたきたい。

(羅臼山岳会 渡辺)

- ・部会の検討スケジュールとしては、第2回検討会議にあわせて部会での議論を進めていきたい。

(座長)

- ・部会としての決定ができてなくても第2回検討会議に状況報告をお願いする。

■ 3. 個別会合等からの報告

資料 3-1 知床五湖地区における取組の進捗状況

資料 3-2 カムイワッカ地区における検討の進捗状況

資料 3-3 ウトロ海域における取組の進捗状況

資料 3-4 羅臼湖地区における取組の進捗状況

(釧路自然環境事務所 野川)

- ・資料 3-1 について説明。
- ・資料 3-2 について説明。
- ・資料 3-3 について説明。
- ・資料 3-4 について説明。

■ 4. 知床国立公園管理計画の改定について

資料 4-1 知床国立公園 管理計画検討会の設置について

資料 4-2 知床国立公園 管理計画改定スケジュール

資料 4-3 知床国立公園管理計画書（原案）

(釧路自然環境事務所 三宅)

- ・資料 4-1 について説明。
- ・資料 4-2 について説明。
- ・資料 4-3 について説明。
- ・資料 4-3 について、何かお気づきの点があれば、ウトロまたは羅臼自然保護官事務所へご連絡いただきたい。

(斜里町 高橋)

- ・斜里町が進めている知床 100 平方メートル運動が 35 周年を迎え、記念事業を予定している。参加願いたい。

(座長)

- ・議事進行や決定の仕方などについて、意見があれば事務局へいただきたい。

【 閉会 】